

委員会構成 担当: 山鹿副会長・藤田委員長・田代副委員長・伊藤委員・小倉委員

佐藤委員(OT)・池上委員(ST)・田中委員(PT)・三澤委員(OT) 9名

出席者: 山鹿・藤田・伊藤・佐藤・池上・三澤 事務局: 吉野 欠席者: 田中・小倉・田代

\*進行: 藤田委員長

1. 前回会議を受けての提出資料の確認(各委員からの意見提示)

①藤田委員長から追加資料提示 17施設 在院日数におけるリハ単位数で比較

②三澤委員より基本在院日数での分類グラフ修正分の再提出(%表+実数入力)

2. 今後の対応について

①提示資料を受けて

\*障害者病棟では、パーキンソンを含む神経難病者等を自宅から受け入れリハを提供し自宅へ転帰する傾向にある。

\*個別ケースの追跡調査が必要で、特に自宅からの対象者がどの程度自宅に転帰しているか等の経過を再調査する必要がある。

<調査対象(案)>

実施施設32施設を対象として、180日以上・未満で個別データを収集する。

<調査項目(案)>

年齢・性別・疾患名(主疾患と基礎疾患)・リハ総単位数・入院から退院までの日数

リハ提供日数・入院一退院先の経路・利用サービスの種類等➡事務局で案を作成し対応。

必要があればメールにて詳細を審議する。

<調査期間(案)>

平成29年10月1日~12月31日の3ヶ月間

締め切り 平成30年1月31日(水)とする。

<今後について>

調査対象となる個別のデータにおいて状態像の変化が有るか無いのかの検証。

基準をどうするかは課題はあるがなにかしら退院時の状態変化データが取れば良い。

食事・排泄の行為における支援内容の変化(FIM・BIの変化だけでは難しい)

3. 最後に

委員会活動の中間報告を提示する必要があるため、10月末までに現状の調査資料を事務局と整理し委員長より報告する。

次回会議 平成30年3月9日(金) 夕刻から \*場所 未定 決定後事務局より案内

文責: 三澤 一登(日本作業療法士協会: 愛媛十全医療学院)